

# 学会の活用法



安田 純子

本学会員の皆様の中には、分析を手段として利用されている「分析ユーザー」の方々も多いのではないかと思います。「分析」は企業内のあらゆる場面で使われています。研究開発においては、その技術的な問題解決のためにはなくてはならないものです。様々な事項に対してエビデンスを求められる昨今、どのような事項であっても、その回答を導き出すには何らかの分析と測定結果が必要になります。

分析手法を身につけるには何を頼ったらいでしょうか。学校や企業では、先輩から教えてもらうことが多いと思いますが、実践的な使い方に偏りがちで、方法の基本まで立ち返って教えてもらうことが少ないように思われます。本誌「ぶんせき」の「お知らせ」欄には、この問題を解決できるセミナーや講演会が毎月掲載されています。セミナーは、手法を中心としたもの、分析対象を中心としたものなど選り取り見取りです。初心者ばかりではなく、中堅の方でも学び直しになったり、新たな発見があったりするものです。講師も本学会員の方々ですので、会員間で知識の伝承が行われているとみることもできます。最近はオンラインでの講習会が多く、開催場所を選ばず参加できるメリットがあります。講習会場で参加する場合は、終了後に先生に質問しやすいですが、オンラインでは躊躇しがちなようです。ここがオンライン講習のデメリットと感じますが、せっかくの機会ですからぜひ先生方の知識を少しでも吸収してみたいかたがでしょう。特に初心者向けの講習会では、こんなことを尋ねてもいいのだろうか、わからないのは自分だけでは…とためらうことがあると思いますが、皆さん理解しにくかったところは同じです。他の参加者のためにも積極的に質問していただくと、お互いに切磋琢磨し一層有意義な時間になるのではないかと思います。

分析技術の進歩は目覚ましく、新しい分析法が次々と報告されています。その中で自分たちの課題を解決できる可能性のある分析法に出会えば、新たなアプローチを得ることができます。分析技術は誰にでも共通な手段です。対象物や求める情報は違っていても、同じ技術を使っている研究者間ではコミュニケーションがとれます。たとえ同業他社であっても、産官学の立場の違いがあっても、普段まったく接点がないような関係であっても、分析技術を通じて交流できる場を提供しているのが本学会です。あるものを利用しない手はありません。それぞれの立場で学会を有効に活用しませんか。

[YASUDA Junko, 株式会社コーセー, 日本分析化学会関東支部長]